

発行者 浜松言友会 浜松市勤労青少年福祉関係団体 認定
NPO法人全国言友会連絡協議会 加盟

会長 谷 哲夫

編集者 菅沼 覚、朝稲 福司

ホームページ <http://hamamatsugenyuukai.web.fc2.com/>

⇒「浜松言友会」で検索

第5回静岡例会 報告

日 時：平成29年9月17日(日)14時～16時45分
場 所：静岡市葵生涯学習センター(アイセル21)3階 和室4
司 会：AF 勉強会：SK
参加人数：10名(SK、IS、SM、YN、AF、
SY、IH、SS、KM(初参加)、KS(初参加))

※「テレビ静岡」によるテレビ放映のための取材がありました。

今回は例会の前半の近況報告などの様子の撮影があり、今後は専門家である会長のT、会員のIへのインタビューが予定されています。



百日紅(伽藍苺)

1. 近況報告・自己紹介など(抜粋)

- 静岡市内で内科の医師をしている。
自分にとっての吃音は、恐怖性障害的な面が強かった。小学校低学年の頃は、勉強ができたこともあって、学級委員に選ばれた。「気をつけ!」「礼!」などの号令をかける際は、言いにくかった。
自己紹介で、自分の順番を待つ恐怖心は、健常者にはわからないものだと思う。汗をかいてくるし、心臓はドキドキする。例えていうなら、崖っぷちに立たされている感じ。
自分にとって「吃音」と「恐怖性障害」のどちらが先であったのかわからないが、現在は、吃音を克服したと思っている。今も若干吃るが、健常者も緊張すると吃るものだ。
どんなに専門的な医者であっても、吃音当事者でない(=健常者である)限りは、吃音のことはわからないと思う。自分は吃音当事者として、自分の経験を話すために例会に参加させていただいた。
- 小学校までは、吃りまくっていたが、気にしていなかった。中学生となり、環境が変化したこともあり、恥ずかしいと思うようになってからは、あまり喋らなくなった。恥ずかしい思いを持ち続けながら進学することもないと考え、中学卒業後は、喋らなくてもよい仕事として左官の道に進んだ。現在も現役である。
若い頃は、東京の吃音矯正所へ通ったが、吃音の原因が究明されていないことを知ってからは、「自分で克服するしかない!」と20歳の頃に心に決めて、実践してきた。今は、かなり克服できたと自信を持っている。
- 言友会に入会する前は、約50年間、悶々とした生活だった。やはり1人でいると、いろいろと考えすぎてしまうものだ。
- 吃音者の人口割合は、よく1パーセントと言われている。しかし、幼児の吃音割合は10パーセントとの報告もある。予期不安を持ち続けるか否かで、吃音症状が残ってしまうのではないだろうか。
最近、電話がかけられるようになった。なんと60年ぶり!それまでは「か行」が苦手であった。職場を退職したことと、言友会に1年ほどまえに入会したことの相乗効果であろうか?
吃音をきっかけとして、二次障害(うつ病、対人恐怖症、引きこもりなど)が引き起こされないようにすることが大切だ。
- 現在は介護の仕事をしている。前職は営業事務であったが、電話が苦手であった。その頃は吃音については全く知識がなかったので、社会不安や鬱が原因と思っていた。自分が吃音であることに気付いたのは最近のことで、今年3月から言友会に参加している。自分の吃音は緊張性によるものではないかと思っている。

- ・ 他県出身。吃音ゆえに、仕事に支障が出てしまっていると思い悩んでいた14年程前、インターネットである言友会を知り、参加した。自分以上に吃っている人がいることを知り、気持ちが軽くなったのを覚えている。昔に比べ、気持ちが明るくなっていると思う。仕事の関係で当分は県内で働いているので、浜松言友会に参加したいと思っている。

緊張型の吃りは、連発性から難発性に移行していくように思う。

- ・ 幼少時から、おとなしい子であった。高校の朗読の授業の時、10秒ほど言葉が出てこなかったことがあった。話しをすることや人に伝えることが苦手で、誤解を招いてしまったこともあったと思う。職場では、あえて吃音者であることを打ち明けてはいないが、多くの人は理解して受け止めていてくれると思う。
- ・ 吃音の波が自分にはある。最近は何となく食べる。
学生頃は朗読が苦手で苦労した。今は吃音で深く悩むことはなくなった。正直、吃音は治らなくても、「自分の中で消化できれば」といいと思っている。自分の年齢に近い人が言友会に参加してほしい。

2. クローズアップされたことなど

① 吃音の克服について

- ・ 吃音克服のために、いろいろと試してきた。人それぞれのやり方がある。田中角栄は浪曲で吃音を克服したといわれるし、様々である。結局「私は、このやり方で吃音を克服した。」でよいと思う。投薬療法も、実際に効果があるのか、やってみなければわからない。

1人でいると、思い込みが強くなり、ろくなことを考えないものだ。医師として日々患者と接していると、そのことを感じる。スポーツ、恋愛、町内会の活動など、積極的に人や社会と関わろうとすることが大切だ。

- ・ 「気付いた時が吉日」として「いろいろな人から学ぶ」ことを心掛けてきた。社会との関わり合いが自信に繋がり。自信は言葉の発音にも効果があることを身をもって体験してきた。

人生の早い時期からの実践によって、克服が容易となり、言葉の癖も残りにくくなるのではないだろうか。

- ・ 中学生の頃までは、食べる自分を嫌い、引っ込み思案であった。しかし、高校生になってからは、そのように考えるのは損ではないか？と思うようになり、自分の考えを変えて社会と積極的に関わることを心掛けてきた。青年会活動などを経験し、現在は自治会活動で忙しい。今でも食べるが、気にすることはなくなり、克服できたと思っている。

② 吃音による二次障害について

- ・ 吃音をきっかけとして、二次障害（うつ病、対人恐怖症、引きこもりなど）が引き起こされないようにすることが大切だ。
- ・ 肝心なのは「自分を否定しない」ことだ。そうでないと、どんどん孤立してしまう。
- ・ 「言友会に参加することもできない重症者をどう救い上げるか」が大きな課題だ。

③ 言友会との関わり方について

- ・ 言友会に対し、「求めてしまう」受身の自分であることを申し訳なく思っている。
〈意見〉それでいいのではないか。受身の状態の時は十分に受け、ある程度、元気になったら、今度は悩んでいる吃音者に手を差し伸べるといってよいと思う。
自分自身も、吃音で悩みながらも、ある程度克服した身として、悩んでいる人に少しでも力になればと願っている。

④ 例会の持ち方について

- ・ 最初から最後まで（約3時間）「吃音」がテーマだと、重苦しい雰囲気になりやすく、初めての方も戸惑ってしまうのではないだろうか？気持ちが楽になる雰囲気づくりが必要だ。
吃音とは関係ないテーマや交流をもっと積極的にしたらどうだろうか。



葛（クズ）

3. その他

8月に開催された「日本吃音・流暢性障害学会 第5回大会 『ダイバーシティ社会と吃音』」に参加されたSKより報告がありました。

日本版クラタリングチェックリスト ver.3（試案）の紹介

浜松例会 報告

日 時：平成 29 年 9 月 24 日（日）14 時～16 時 30 分
場 所：アイミティ浜松（浜松市立勤労青少年ホーム）2 階 第 1 集会室
参加人数：10 名（TT、AF、YN、NH、IH・M、HS、MY、
SY さん（初参加）、MK さん（初参加））

- ※「テレビ静岡」によるテレビ放映のための取材がありました。10 月早々に放映予定です。
13 時より専門家・言語聴覚士としての会長 T へのインタビュー、14 時から例会の冒頭の様子撮影。
- ※「中日新聞」より例会の様子と写真撮影、会長 T と事務局 A へのインタビューもありました。
これは「第 34 回中日ボランティア賞」を受賞の特集記事で、10 月 18 日に掲載予定です。

1. 近況報告・自己紹介など（抜粋）

- ・「吃音者宣言」について入会当時はびっくりしたが、今読み返せばいいことが書いてある。
- ・政治の状況が混迷し総選挙になりそうであり、選挙権が 18 歳以上になりここにいる学生さんも選挙権がある。
- ・磐田・見付の裸祭りを見てきた。
- ・新入会員はあるが吃音の克服者が多く、本当に吃音に困っている人の参加がないようだ。
- ・T 先生といっしょに吃音について頑張って勉強したい。
- ・新幹線で家族旅行、青森の奥入瀬渓流、北海道へ行った。
- ・岐阜の実家に帰り、草取りに汗を流した。
- ・高 1 の上の息子が言語聴覚士に興味を持っているようだ。
- ・地元のみれあいフェスティバルで、孫の「ハイハイレース」を応援してきた。
- ・大卒後社会に出たばかりだが、営業職になじめず退職、今は運送会社の運転手、将来は別の職に就きたい。
- ・決まったことをいうのが苦手、言語聴覚士に付いて訓練したがダメだった。
- ・小さいころから吃音だったようだが小学校高学年から吃音を自覚した。
- ・どの程度が吃音に困ると考えるかは、人によって違う。
- ・どもりだから就職できないわけではない。
- ・吃音でたどたどしくしゃべるほど印象には残るのではないか。
- ・言友会は吃音を治す場ではなく、みんなの経験を聞きそれを自分の糧に克服していく。



テレビ静岡の T へのインタビュー

2. 学生会員への卒業研究の協力について

言語聴覚学科の学生の卒業研究のために、会員の「吃音体験発表」文を利用することへのお願いと、了解を得ること。

研究目的は、吃音を前向きにあるいは肯定的に捉えるためのきっかけを知り、経験や受容の仕方を明らかにする。

3. 吃音講座 静岡会場の打ち合わせ

- ・集合時間や昼食、準備する物や担当者の決定
 - ・言語聴覚学科の学生にも積極的に協力してもらおう。
- 日 時：平成 29 年 10 月 1 日（日）10 時集合準備 13 時受付～17 時 00 分
会 場：静岡県総合社会福祉会館（シズウエル）101 会議室：
内 容：吃音当事者による体験発表、専門家による講義、グループ意見交換、
吃音相談 ほか
- ※ 開催結果は次号で報告します。



October 22, 2017
isad.isastutter.org

国際吃音啓発の日 案内

吃音を理解する世界 2017.10.22

「吃音を理解する世界」には、吃音を抱える人々を含めすべての人が含まれます。

あなたが吃音という理由だけですべての人の吃音を理解するという意味ではありません。それはあなたが何をし、感じ考えているかを意味し、すべての吃音を理解する意味でもありません。（仮和訳）

- ※ 10 月 22 日の例会前に、浜松駅周辺で「国際吃音啓発の日（10 月 22 日）」用のポケットティッシュ及び浜松言友会のチラシを配布予定です。現在、場所・時間を調整中です。詳細が決まり次第、ホームページにてお知らせいたします。ホームページで確認できない方は、恐れ入りますが、事務局までお問い合わせください。
- 他の駅前でも計画中です。

次回 浜松例会 案内

日 時：平成29年10月22日（日） 14時～16時45分
場 所：アイミティ浜松（浜松市立勤労青少年ホーム）2階 和室
司 会：YN（兼テーマ内容担当）
内 容：吃音相談、近況報告など
「第5回青少年のための吃音講座（静岡）」を振り返って
その他

第6回静岡例会 案内

日 時：平成29年11月12日（日） 14時～16時45分
場 所：静岡市葵生涯学習センター（アイセル21）2階 第22集会室
内 容：吃音相談、近況報告など
「第5回青少年のための吃音講座（静岡）」を振り返って
その他

次々回 浜松例会 案内

日 時：平成29年11月26日（日） 14時～16時45分
場 所：アイミティ浜松（浜松市立勤労青少年ホーム）2階 第1集会室
内 容：吃音相談、近況報告など
その他

※ 各例会の内容は、参加状況等により変更となる場合があります。



実りの秋 稲田

その他お知らせ

- ・ 浜松言友会が「第34回中日ボランティア賞」を10月19日に受賞することになりました。
- ・ 年会費 9月納入者（9月29日現在） KM、MN
平成29年度納入者 正会員22名 賛助会員15名
- ・ 第31回言友会中部大会 2017 IN 飛騨高山
～吃音といま一度向き合い、語り合おう～
期 日：平成29年10月28日（土）～29日（日）
会 場：岐阜県高山市山口町961 「お宿・信田（のぶた）」
参加費：10,000円（一泊2食、懇親会費等含む）
⇒ 浜松言友会からも何名か参加予定です。詳細は事務局まで。
- ・ 第51回言友会全国大会（ワークショップ）
期 日：平成29年11月3日（金・祝）～5日（日）
会 場：福岡市東区勝馬1803-1 休暇村志賀島



全国言友会連絡協議会

～編集者より～

先日、主に若い会員と初めての懇親会を持ちました。

幹事が用意してくれた落ち着いた居酒屋で、とてもリラックスして話し込むことができました。

そこで、気付いたことがあります。自分は、若い人こそ、「吃音を治す」「吃音を改善する」ことを強く求めているものと思い込んでいた節があったのですが、むしろ、同じ悩みを共有したり、人と人との触れあいを求めているということがわかりました。やはり年齢に関係なく、人間とはそういうものなんだということ、あらためて実感しました。そして静岡例会で『吃音を治す・治った』だけで終わってしまっただけではダメ』といった発言を聞き、共通する何かを垣間見た思いでした。

事務局 朝稲福司 〒438-0818 静岡県磐田市下万能 357
Tel & Fax 0538-32-5682 (携 080-1606-5162)
Eメール asaine@msb.biglobe.ne.jp